

Practical English Teaching Using the Film *Beauty and the Beast* (2017)

Mikako NONAKA

Summary

This paper aims to verify a new method of teaching English in high school classes and consider the result of questionnaires for students studying in the classes. The author tried to use the Disney Movie, *Beauty and the Beast* (2017), which has been popular and enchanted all around the world for a long time, as an English teaching material. It turned out to be enjoyable and effective for Japanese high school students to study English in the classes through the Disney Movie and the music used in it. However, as the percentage of the result of the questionnaire shows, the interest in the movie does not quite correspond to the motivation to English learning. The future theme is how strongly the interest in the movie can correspond to the motivation to English learning.

Key words: English teaching, audio-visual aids, movie, song

はじめに

これまでの英語教育における映画の活用方法については、角山照彦の『映画を教材とした英語教育に関する研究』(2008)、¹ 磐崎弘貞他12人による『映画英語教育のすすめ』(1995)、² 中谷安男と八尋春海の『映画英語教育論』(2003)にあるように、³ 英語教授法、異文化、英語学、授業評価の側面から多角的に多くの研究がされている。ディズニー映画を用いた研究は、言語学、⁴ 社会

* 高知工業高等専門学校 ソーシャルデザイン工学科 講師

¹ 角山照彦、『映画を教材とした英語教育に関する研究』(岡山：ふくろう出版) 2008年。

² 中谷安男と八尋春海、『映画英語教育論』(名古屋：スクリーンプレイ) 2003年。

³ 磐崎弘貞他12人、『映画英語教育のすすめ』(名古屋：スクリーンプレイ) 1995年。

⁴ 言語学の側面から、重野が*Frozen* (2013) (以下『アナと雪の女王』)の主題歌“Let It Go” (2013) (以下「ありのままで」)を13か国語で歌ったものについて、それぞれの言語がもつ音象徴を分析している。重野純、「曲中における歌詞の響き：重野純、ディズニー『アナと雪の女王』の主題歌「ありのままで」に使用された13か国語の比較」、『青山心理学研究』第16号39-42.; 長橋は*Alice in Wonderland*のアニメ版(1951)と実写版(2010)を動詞、普通名詞、固有名詞、形容詞といった言語的特徴から比較分析している。長橋雅俊、「コーパス分析によるディズニー映画の英語字幕から探る新旧作品の比較—『ふしぎの国のアリス』と『アリス・イン・ワンダーランド』から—」、『言語文化研究/聖徳大学大学院言語文化学会編』16号 (2017) 15-25.

学、⁵ 文化学、⁶ 文学の各側面からされている。⁷ しかし、英語教育学の側面からは、橋本賢二がディズニー映画の教材としての有用性を論じ、⁸ 山口吉男が『アラジン』の脚本を用いた英語教育について論じているが、⁹ よく進んでいるとは言えない。特に、映画『美女と野獣』(2017)を用いた研究では、言語学的側面から、松浦加寿子と竹野純一郎が、ポライトネス理論からベルと野獣の会話分析を行い2人の関係性を明らかにしている。¹⁰ 文学的側面からは、Robert Brockが、原作小説*La Belle et la Bête* (1740)の物語は映画『美女と野獣』(1991)でどのように変わったかを調べた上で(5)、映画『美女と野獣』(2017)がおとぎ話の系譜にあることの位置づけを行っている(7)。¹¹ 新倉朗子は、Gabrielle-Suzanne de Villeneuve夫人版『美女と野獣』とJeanne-Marie Leprince de Beaumont夫人版のそれとの比較を行ったり、¹² この作品が昔話の体系の中でどのように位置付けられるか論考したりしている。¹³ 笹田裕子は、映画『美女と野獣』におけるベルと野獣の各人物造型と相互成長についてアニメ版と実写版との比較を行っている。¹⁴ しかし、英語教育学の側面から

⁵ 社会学の側面から、加藤は*Brave* (2012)に描かれたスコットランド民族のイメージについて、スコットランドの国民意識、スコットランドへの巡礼、本質主義の各視点から論考している。加藤昌弘、「現代スコットランドにおけるディズニー映画の受容—映画『メリダとおそろしの森』(2012)にみる人種・民族のイメージと国民意識—」、『人間学研究』15号(2018)1-13。

⁶ 文化学の側面から、栗原は*Moana* (2016)に登場する半神Mauiが、ポリネシアのアイデンティティーとして描かれてはいないことと、マウイのもつ刺青は時代の要請に応じて映像表現されていることを結論付けている。栗原詩子、「動きはじめたタトゥー—偽ポリネシアのディズニー映画『モアナ』における半神マウイ—」、『西南学院大学国際文化論集』32号(2017)51-95。；鈴木は『アナと雪の女王』の主題歌「ありのままで」の世界観が仏教に類似することを突き止めた。鈴木隆泰、「ディズニー映画*Frozen*に見える宗教的世界観・人間観—レリゴと仏教—」、『山口県立大学学術情報大学院論集』16号(2015)15-36。

⁷ 文学の側面から、國澤は*The Little Mermaid* (以下『リトル・マーメイド』)(1989)と『崖の上のポニョ』(2008)において、異なるヒロイン像として受け身的な女性の人魚姫と主体的な女性のポニョを比較すると同時に、両作品における対照的な男性像を比較している。國澤昌史、「ディズニー映画『リトル・マーメイド』とジブリ映画『崖の上のポニョ』におけるジェンダー表彰の比較研究」、『神奈川大学大学院言語と文化論集』24号(2018)1-53。；峰は*Mulan* (1998)の主人公Mulanと数人のディズニー・プリンセス、Ariel、Bell、Jasmineとの比較から、ムーランのもつ自己のアイデンティティーへの疑問に注目し、父権制社会へ勇敢に挑んだ主体的な意志をもつ新しい女性像に注目する。峰佳奈子、「映画『ムーラン』に見るディズニー映画の新しい女性像についての考察」、『筑紫女学園大学アジア文化学科紀要』8号(2007)101-119。；李と高橋は次のプリンセス8作品、*Snow White and the Seven Dwarfs* (1937)、*Cinderella* (1950)、*Sleeping Beauty* (1959)、『リトル・マーメイド』、*Beauty and the Beast* (以下『美女と野獣』)(1991)、*Aladdin* (1992) (以下『アラジン』)、『ムーラン』、*Enchanted* (2007)のヒロインのジェンダー問題を考察した上で、ディズニー映画は、社会への映像による強い影響力を鑑みて、これからの両性平等の新しい時代を見据え、よりニュートラルな立場や環境におかれた新しい女性像と男性像を創造し発信していく必要があると結論付ける。李修京・高橋理美、「ディズニー映画のプリンセス物語に関する考察」、『東京学芸大学紀要人文社会科学系』I、62(2011)87-122。；舞は*Zootopia* (2016)に描かれた現代アメリカ社会におけるステレオタイプや人種、人種差別を考察し、“Unconscious Bias”「無意識の偏見」について論考する。「無意識の偏見」は無くそうとするのではなく自覚し、相互理解することが大切だと述べる(51)。舞さつき、「動物たちの“Unconscious Bias”:ディズニー映画『ズートピア』から」、『言語文化共同研究プロジェクト2017』(2018)45-52。；吉村は、Alan Alexander Milneの*Winnie-the-Pooh* (1926)、その続編*The House at Pooh Corner* (1928)、ディズニー映画*The Many Adventures of Winnie the Pooh* (1977)を用いて、ミルンの平和思想がディズニー映画には描かれていないことを指摘し(137)、作家の思想を理解して小説と映画双方の描写を比較することで見いだされた論点を考察するという文学的アプローチからの英語教育の在り方を提議する。吉村圭、「書き換えられた*Winnie-the-Pooh*の完全なる平和—ディズニー版『プー』にみる戦争の表象—」、『映像メディア英語教育学会』24号(2019)127-140。

⁸ 橋本賢二、「教材としてのディズニー映画」、『大阪教育大学英文学会誌』53号(2008)69-74。

⁹ 山口吉男、「アニメで英語—私の授業—」、『愛知学泉大学・短期大学紀要』47号(2012)97-106。

¹⁰ 松浦加寿子と竹野純一郎、「映画『美女と野獣』におけるベルと野獣の話体—ポライトネス理論からのアプローチ—」、『映像メディア英語教育研究』24号(2019)87-100。

¹¹ Robert Brock, “Beauty and the Beast: From Ancient Oral Story to Disney Movies,” 『人文学報』514-13号(2018)1-8。

¹² 新倉朗子、「『美女と野獣』考—その1—」、『東京家政大学研究紀要』17集(1977)11-19。

¹³ 新倉朗子、「『美女と野獣』考—その2—」、『東京家政大学研究紀要』18集(1978)11-18。

の本映画を用いた研究はあまり進んでいない。そのため、本稿は映画『美女と野獣』(2017)を授業実践的な英語教育学の側面から論考する。

本映画は、1991年アニメ版映画公開以降、今なお人気を博しており、歌曲「美女と野獣」は、1991年にアカデミー歌曲賞を受賞し、2017年にディズニー映画として初めて実写化された本映画の挿入歌である。またこの映画は、含まれる全ての曲がミュージカル音楽であり、英語学習者にとって楽しく英語を学ぶことの出来る題材だと思われる。本稿は、本映画を授業で英語教材として取り上げ、英語教育にいかにも有用であるのかを考察することを目的としている。¹⁵ 授業実践は、2019年6、7月の各1日に関西の私立通信制高校において1年生35人、2年生30人、3年生20人を対象にスクーリングの「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業2回において行った。1回の授業は45分間で、アンケートは各授業直後に教室内で実施した。第1回目では挿入歌「美女と野獣」、¹⁶ 第2回目では本映画『美女と野獣』(2017)のキャラクターやあらすじとDVD映画視聴を取り上げた。¹⁷

1. 第1回スクーリング：45分間

挿入歌「美女と野獣」を発音、英単語、英文法の各側面から分析して、高校1、2、3年生にプリントを配布し説明した。ここでは、授業実践の手法の紹介として各側面に分けて第1連から第3連までを載せる。

1.1. 発音

Tale as old as time

ティラ ゾウルダス タイム

True as it can be

トゥル- アジツ キャンビー

Barely even friends

ベアリ- ヴウンフレンズ

Then somebody bends Unexpectedly (1-4)

ゼン サムバディベンズ アニクスpekティッドリー

1行目では“Tale”[teɪl]と“as”[əz]、同じ“as”[əz]と“old”[oʊld]、同じ“old”[oʊld]と“as”[əz]がそれぞれつながり[teɪləzoʊldəz]の音が生じる。2行目では“as”[əz]と“it”[ɪt]がつながり[əzɪt]の音が生じる。3行目では“Barely”[beəli]と“even”[iːvn]がつながることで片方の[i]の音が消失して[beəliːvn]の音が生じる。“[F]riends” (3)と“bends” (4)は[endz]の音で韻を踏む。

Just a little change

ジャスタ リル テンジ

Small, to say the least

スモール トゥ セイザ リース

¹⁴ 笹田裕子、「*Beauty and the Beast*に関する一考察」、『清泉女子大学人文科学研究紀要』39号 (2018) 142-154.

¹⁵ 本稿は、拙稿「ディズニー音楽『美女と野獣』の魅力と英語教材の可能性の一考察」『比較文化研究』第136号 (2019) 287-300における授業実践の効果を実証している。

¹⁶ Menken, Alan and Ashman, Howard. “Beauty and the Beast.” *AZLyrics*. 1 Oct. 2018. <<https://www.azlyrics.com/lyrics/celinedion/beautyandthebeast.html>>.

¹⁷ 授業ではビル・コンドン監督DVD『美女と野獣』(ウォルト・ディズニー・ジャパン 2017)を用いた。

Both a little scared

ボウサ リル スケアー

Neither one prepared

ニザ ワン プリペアー

Beauty and the beast (5-9)

ビューティー アンザ ビース

6行目では“Just”[dʒʌst]と“a”[ə]がつながり[dʒʌstə]の音が生じる。8行目では“Both”[boʊθ]と“a”[ə]がつながり[boʊθə]の音が生じる。10行目では“and”[ənd]の[d]が歯音化して[d̪]の音が消失し[ənðə]の音が生じる。“[L]east”(7)[li:st]と“beast”(10)[bi:st]は[i:st]の脚韻を生じ、“scared”(8)[skeəd]と“prepared”(9)[pripeəd]は[eəd]の脚韻を生じる。

Ever just the same

エヴァジャスザ セイム

Ever a surprise

エヴァラ サプライズ

Ever as before

エヴァラズビフォア

Ever just as sure

エヴァ ジャスタズシュア

As the sun will rise (10-14)

アズザ サン ウィル ライズ

11行目では“Just”[dʒʌst]の[t]が歯音化して消失し[dʒʌsðə]の音が生じる。14行目では“Just”[dʒʌst]と“as”[əz]がつながり[dʒʌstəz]の音が生じる。“Ever”(11)(12)(13)(14)が各行頭に4つ並ぶことで、第3連および曲全体が統一感と安定感を生じる。

1.2. 英単語

高校1、2年生で学んでおくべき基本英単語を歌詞から取り上げ、生徒にプリントを配布し、歌詞の意味理解を促した。

Tale as old as time

物語 古い 時間

(経過した時間と同じ位に古い物語→昔々の物語)

True as it can be

本当の

(それがありえるように本当らしく→真実の物語)

Barely even friends

かろうじて

(かろうじて友達ではあるが)

Then somebody bends Unexpectedly (1-4)

誰か 跪く 予期せずに

Just a little change

ほんの 変化
(ほんのわずかな変化)

Small, to say the least

控えめに言っても
(ほんの少しとしか言えないような)

Both a little scared

両方 少し 恐れて
(お互いに少し恐れている)

Neither one prepared

どちらも~ない 準備した
(どちらも準備していなかった)

Beauty and the beast (5-9)

美女 野獣
(美女と野獣)

Ever just the same

いつも 同じ
(いつもと同じように)

Ever a surprise

驚き
(いつもの驚きのよう)

Ever as before

いつも 以前
(以前のよう)

Ever just as sure

いつも 確かな
(いつも確かなよう)

As the sun will rise (10-14)

太陽 昇る
(太陽が昇るよう)

「美女と野獣」の歌詞には、全体を通して作品のストーリーが順を追って書き込まれている。それゆえ、歌詞を理解することによって映画作品の物語を味わうことが出来る。第1連の“Barely” (3)、“friends” (3)、“somebody” (4)、“Unexpectedly” (5) はベルと野獣が見知らぬ者同士として出会い、第2連の“a little” (6)、“Small” (7)、“the least” (7)、“a little” (8) は両者が初対面で互いに悪印象をもったにも関わらず、わずかな変化が生じて理解を深めていくことが示される。第3連の“Ever” (11)、“just the same” (11)、“a surprise” (12) は2つの心が接近していくことが日常化することが示される。

1.3. 英文法

高校1、2年生で学んでおくべき基本英文法を歌詞から取り上げ、生徒にプリントを配布し、歌

詞の文法理解を促した。

Tale as old as time

同等比較：同じ程度を表現するのにasを2つ用いる。

True as it can be

can+動詞原形：助動詞の直後には動詞の原形を置く。canは可能を表す。

Barely even friends

Then somebody bends Unexpectedly (1-4)

Just a little change

Small, to say the least

little-less-least：littleの最上級leastは最も少ないの意味がある。

Both a little scared

Neither one prepared

全部否定：どちらも～ない。

Beauty and the beast (5-9)

Ever just the same

Ever a surprise

Ever as before

Ever just as sure

As the sun will rise (10-14)

will+動詞原形：助動詞の直後は動詞の原形を置く。Willは単純未来を表す。

1.4. アンケート

この授業を通して生徒の学習意欲を高めることが出来たかどうかを、以下の3つの質問が記されたアンケート用紙を用いて検証を試みた。

- A. 洋楽、洋画への関心が高まりましたか？ はい ・ いいえ
 B. 英語を学ぶことへの意欲が湧きましたか？ はい ・ いいえ
 C. 今日の授業の感想を書いてください。

アンケート結果は次のとおりである。

	A. はい いいえ		B. はい いいえ	
1年生	31 (89%)	4 (11%)	28 (80%)	7 (20%)
2年生	25 (83%)	5 (17%)	24 (80%)	6 (20%)
3年生	18 (90%)	2 (10%)	15 (75%)	5 (25%)

C. 1年生の肯定的感想では、歌詞や洋楽への関心が高く、英語について好印象を持った生徒が11人いた。歌えるようになりたいと意欲的な記述が3人いた。1年生では、洋楽と英語学習との心理的な境界が感じられず、歌への関心が英語学習への意欲につながっている。一方、否定的感想では2人が難しいと感じていた。

2年生の肯定的感想では、洋楽への関心を抱いた生徒は10人いた。発音が分かり英語学習を楽しめたと記述した生徒は3人いた。授業が面白かったと記述した生徒は4人いた。1年生に比べて2

年生では洋楽と英語学習との区別が明確であり、学びを意識して洋楽を楽しむことが出来ていた。一方、否定的感想では、難しいと記述した生徒は5人いた。その内3人に発音への苦手意識があった。3年生の肯定的感想では、洋楽への好印象を抱いた生徒は10人いた。歌詞の意味や文法を学ぶことへの意欲を感じられた生徒は3人いた。一方、否定的感想では発音が難しいと記述した生徒が1人いた。

アンケート結果について、1、2、3年生の多くの生徒が本授業により洋楽への関心を高め、英語学習への意欲を高めることができたといえる。ただ、洋楽への関心が英語学習への意欲そのものになるというわけではないことがわかる。全学年で洋楽への関心の割合に比べ英語学習への意欲の割合は低い。特に3年生でその乖離が目立っている。1年生のほうが2年生に比べ洋楽への関心割合は高いが英語学習への意欲の割合は両学年とも同じであり、1、2年生における洋楽への関心と英語学習への意欲との相関関係は低いといえる。

また感想については、どの学年にも否定的意見があり、本授業により洋楽と英語を難しく感じた生徒がいた。英語を読むことには慣れているが音で言葉を理解するという機会が少なかったからかもしれない。洋楽を通して英語に親しむことができるような英語授業の方法を研究し実践していく必要がある。

2. 第2回スクーリング：45分間

2.1. キャラクターと粗筋の紹介、DVD映画視聴

第2回スクーリングでは、高校3年生を対象としてパワーポイントを用いて映画『美女と野獣』のキャラクターと粗筋の紹介、その後にDVDで映画視聴を行った。登場するキャラクターは様々な人物や家具—主人公Bell、野獣、ベルに恋する若者Gaston、ガストンの手下Lefou、ベルの父親モーリス (Maurice)、燭台のルミエール (Lumière)、置時計のコグスワース (Cogsworth)、紅茶のポットのポット夫人 (Mrs. Potts)、ポット夫人の子チップ (Chip Potts)、フェザーダスターのフィフィとバベット (Fifi / Babette)、洋服だんすのマダム・デ・ラ・グランデ・ブーシェとマダム・ド・ガルドローブ (Madame de la Grande Bouche / Madame de galdrove)、長腰掛けのサルタン (Sultan) —である。

次に、原作小説の版による粗筋の違いを説明し、DVDでハイライトを中心に映画を視聴した。『美女と野獣』はフランスで創作された異類婚姻譚である。1740年にガブリエル＝シュザンヌ・ド・ヴィルヌーヴによって最初に書かれ、現在広く知られているのはそれを短縮して1756年に出版されたジャンヌ＝マリー・ルプランス・ド・ボーモン版である。ヴィルヌーヴ版では、3人の娘と3人の息子を持つ商人が野獣の屋敷に迷い込む設定である。野獣が商人の身代わりとしてベルを監禁するが、父親の病のために彼女の一時帰郷の申し出を許可する。しかし、2人の姉が末娘の豪邸での生活を聞いて嫉妬し、妹に帰宅を遅らせようと悪だくみをする。ベルは野獣が死にかかっている夢を見て屋敷に戻り、彼女の愛の告白に野獣は本来の王子の姿に戻ることができる。ボーモン版では、王子を野獣に変えた妖女が、意地悪な2人の姉を石に変える場面がある。

映画作品の粗筋ではアニメ版と実写版は共に共通して、新しいキャラクターの若者ガストンに求愛されている1人娘ベルを持つ商人が野獣の屋敷に迷い込む設定である。商人はガストンに娘を助けるよう請うが、ガストンは彼を狂人扱いし、父親を助けに戻ったベルも父と共に監禁される。ガストンは野獣退治に行くが命を落とし、ベルが瀕死の野獣に愛の告白をすることで、野獣は王子の姿に戻る。

2.2. アンケート

この授業を通して生徒の学習意欲を高めることが出来たかどうかを、以下の3つの質問が記され

たアンケート用紙を用いて検証を試みた。

- A. 洋楽、洋画への関心が高まりましたか？ はい ・ いいえ
 B. 英語を学ぶことへの意欲が湧きましたか？ はい ・ いいえ
 C. 今日の授業の感想を書いてください。

アンケートの結果は次のとおりである。

	A. はい	いいえ	B. はい	いいえ
3年生	9 (90%)	1 (10%)	8 (80%)	2 (20%)

C. 映画への関心が4人、(時間的制約があり細切れでのDVD視聴であったため)通して映画を見たいが4人いた。作品内容について、印象的場面を記述した生徒が1人、ヴェルヌ版とディズニー版との比較を記述した生徒が1人、感動した場面を記述した生徒が1人いた。否定的感想はなかった。

アンケート結果について、第2回目のスクーリングを実施したのは高校3年生だけである。母集団が少ないものの、生徒の大半が映画への関心を高め、同時に英語学習への意欲を高めることができたといえる。洋楽と同様、映画への関心が英語学習への意欲そのものになるというわけではないことがわかる。映画への関心の割合に比べ英語学習への意欲の割合はわずかに低い。感想は肯定的なものばかりであり、この授業をきっかけに生徒が洋画と英語への興味を深めることが出来たと言える。第2回目スクーリングは、英語音声と日本語字幕で映画視聴を行い、必然的に日本語に頼らざるを得ない状況が生じていた。今後の課題として、生徒に英語音声と英語字幕だけで洋画の楽しさを感じてもらえる授業を行いたい。授業での洋画鑑賞を通して、日本語字幕に頼らず英語だけで作品を理解する楽しさ、英語表現の多様性を学ぶことの楽しさを知る機会を作りたい。

おわりに

高校生に対する映画『美女と野獣』(2017)の挿入歌と洋画を用いた授業により、洋楽と洋画への興味と共に英語学習への意欲を高める可能性が高いことが分かった。しかし、アンケート結果が示すように、前者と後者の数値は一致しておらず相関関係があるわけではない。洋楽と洋画への興味の強さをいかに英語学習への意欲の強さに繋げることができるのかが今後の課題である。洋楽と洋画という入手が容易で有益な映像メディア教材をどのように英語教材として活用していくことが出来るのか、授業者として日々新たな授業手法を創造し試行錯誤する必要がある。今後は生徒個人が作品を解釈する楽しさ、作品解釈の多様性を感じ取ることで出来る授業を行っていきたいと考える。授業での洋画鑑賞を通して何を得ることが出来たのかを個人が意思表示できる機会を設けていきたい。

参考資料

第1回スクーリング集計アンケート(原文のまま)

1年生の肯定的感想

- ・歌詞の意味についてよく理解できました。また発音の仕方が分かりやすかったです。
- ・英語はもともと苦手なのでちょっとだけ興味をもてた。
- ・これからいろいろな洋楽を聞いてみようと思った。
- ・洋楽に触れられてよかった。
- ・英語はとても苦手ですがおもしろかったです。

- ・普段洋楽は韓国しか聞かないが、英語も素敵だなと思った。
- ・今回好きな曲が学べてうれしかったしとても楽しかったです。家に帰って歌えるように頑張ります。
- ・楽しかった。
- ・英語の歌をきれいに歌えるようになってみたいので洋楽は聞き漁ってみようと思います。
- ・日常生活でも英語が生きる場所が多いのでぜひ覚えたいです。1つの意味でも違う言葉を使うことがあるのでパターンなどを覚えて使い分けをしたいです。
- ・子音と母音の説明の仕方すごくわかりやすかったです。

1年生の否定的感想

- ・曲で眠かったです。
- ・難しいなと思いました。

2年生の肯定的感想

- ・いい曲だと思った。
- ・洋楽を聞いてみようと思った。
- ・洋楽をあまり聞かないので興味がでた。
- ・きれいな歌声だった。
- ・歌を楽しく学べました。
- ・発音の仕方、単語の意味などを詳しく勉強できてよかった。
- ・歌で英語が学べるといつもより楽しく勉強ができました。
- ・おもしろかったです。
- ・発音の仕方や反語を学んだので、これからの学習に生かしていけるとおもいました。
- ・英語の歌でも意味が分かれば面白いと思いました。
- ・英語の発音は僕にとってはむづかしいのですが、映画の中での発音などはとても美しく練習してみたいと思いました。
- ・英語も日本語と同じで例文等を使って表現するのは面白いなと思いました。
- ・ミュージカル映画は楽しく学ぶことができて好きなジャンルの1つだと思った。
- ・英語は苦手ですが、英単語や文法の理解を深め、洋楽を聴いたり洋画を見たりしたいです。
- ・よかった。
- ・英語への意欲が強まりました。
- ・初めて見る単語もあったから学べてよかった。英語は得意だから頑張りたいです。
- ・洋楽にもっと興味が湧いてきました。
- ・わかりやすかった。
- ・まだ英語が完ぺきではないことを思い知らされたのもっと頑張りたい。
- ・元々洋楽や洋画を見るのが好きなのですが、より関心がわいてきました。
- ・よい英語
- ・英語は日本語とは伝え方や表現の方法が違うのだと思った。
- ・授業も分かりやすくて、面白かったです。

2年生の否定的感想

- ・やはり難しい。
- ・英文を見ながらだと追いつけるが、聞いただけで理解するのはむづかしかったです。
- ・歌っているときの発音が中々聞きとれなかった。やはり文字と音は結構違うものだった。
- ・英語の発音がすごくむづかしそうだなと思いました。
- ・英語はむづかしいと改めて思った。

- ・洋楽嫌いじゃないけど、発音良すぎて何言っているか分からない。

3年生の肯定的感想

- ・洋楽ってやっぱり良いですね。
- ・僕的に洋楽はいつも聞くのですが以外と歌詞を知らないことの利点みたいな事があるなと思いました。
- ・とても分かりやすい。
- ・洋画は毎日聞いているのですが意味をしっかりと分からず聞いているので勉強を通して学んでいけたらなと思いました。
- ・ディズニー映画好きやから、それで英語の授業受けるとテンション上がる。歌詞もわかるし面白いなと思った。ありがとうございました。
- ・洋楽の歌い方や単語、文法などをテンポよく学べて、とてもためになりました。
- ・すっかり忘れていたことが多々あったので復習ができてよかったです。
- ・この授業で西洋の映画のことをよく知れました。
- ・この歌は日本語バージョンのものしか聞いたことがなかったので英語バージョンを聴く機会があって良かった。
- ・洋楽などを聴くときもそうですが、これからグローバル社会になっていくにつれ英語はとても大切だと思うので英語を学ぼうと思いました。
- ・良かった。
- ・これまでに比べて分かりやすかった。
- ・洋画や洋楽を用いて勉強するのはもっと知りたいと思えるのでとても良かったです。
- ・Beauty and the Beastはアニメ版の方をよく聞いていたので、実写のほうは新鮮でした。

3年生の否定的感想

- ・英語が苦手なので1人1人発言するのが少しやりづらかったです。
- ・英語は歌だと言葉がくつつくというのはどういうとき、どうくつつくのかよくわからなかった。
- ・知っている曲で授業を聞くのは良かったのですが、ちょっと眠たくなってしまいます。

第2回スクーリング集計アンケート（原文のまま）

3年生の感想

- ・もっと英語を勉強して、字幕なしで洋画をみれるようになりたいと思いました。
- ・字幕版の映画を見るのもおもしろいと思った。
- ・序盤のベルと村人の歌のシーンでベルが変わり者だということをいろいろな表現であらわされているところや、もてなしの場面のミュージカル映画らしいきれいな歌とCGを交えたダンスが印象的だった。
- ・美女と野獣をかりてみたいと思った。ミュージカルにも興味がわいた。
- ・映画を通して見てみたいと思いました。ヴィルヌーブ版とディズニー版どちらも映画を見たことがあります。2人が恋に落ちる様子などディズニー版のほうが好きです。
- ・美女と野獣はディズニーの中でも好きな作品だったのでとても楽しく見れたのでよかったと思いました。次はゆっくりみてみたいなと思いました。
- ・飛ばし飛ばしだったのでDVDを借りてみてみたいと思った。
- ・映画なので見ごたえがあった。ノーカットで見てみたい。
- ・今日の授業で感じたことは「美女と野獣」を通してベルが王子に愛の告白をして自らの思いを伝えたことに感動しました。

受理日：2021年10月15日